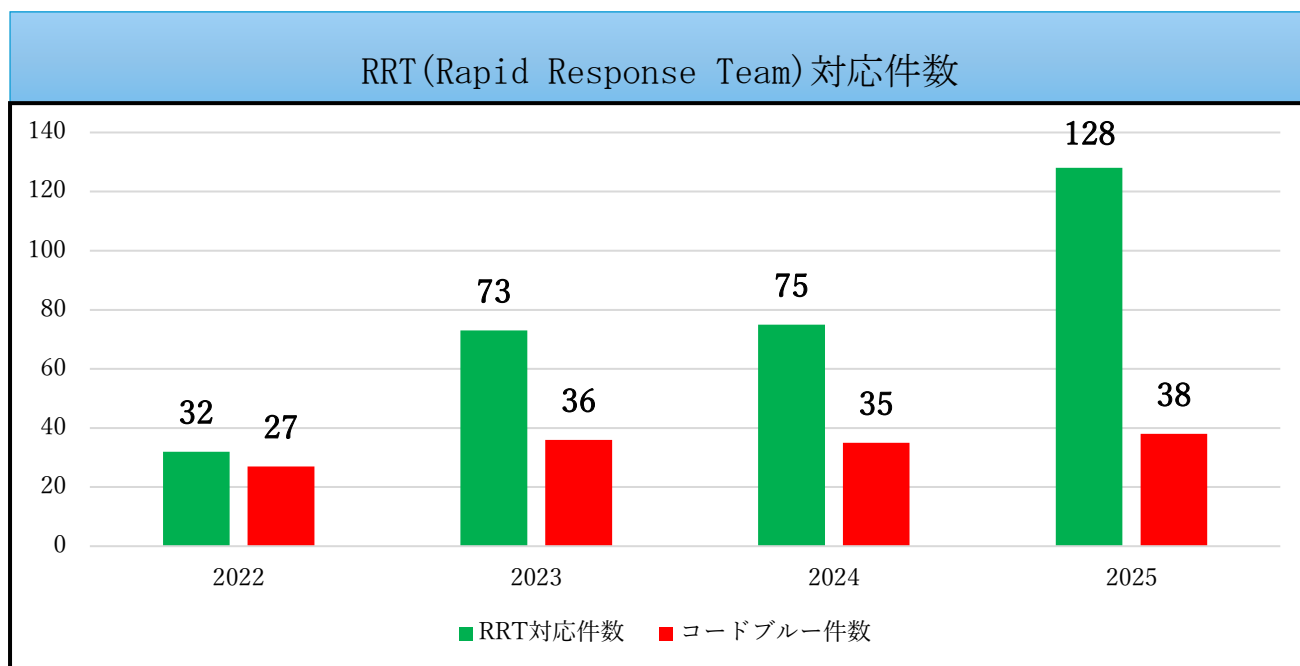


13. RRT (Rapid Response Team) 対応件数



➤ 指標の説明

RRS（ラピッド・レスポンス・システム）は、入院中の患者さんに「急に具合が悪くなる前のサイン」が見られたときに、担当の医師や専門チーム（RRT）につなぐ仕組みです。RRT（ラピッド・レスポンス・チーム）は、主治医だけでは対応が難しい場合や判断に迷う場合に、相談や初期対応を行うチームであり、患者さんの状態悪化を早期に発見し、重症化を未然に防ぐ役割を担っています。RRS が円滑に稼働していることは、安全で質の高い医療を提供できているかを測る大切な指標のひとつです。

➤ 定義

- ・ 1 年間の RRT 対応件数
- ・ 1 年間のコードブルー件数

➤ 評価

当院では、患者さんの急変を早期に察知し、迅速に対応できる体制として RRS（院内緊急対応システム）を整備しています。2022 年度より対応チーム（RRT）の活動を開始し、院内の急変対応体制を強化しました。その結果、RRT の対応件数は増加しています。さらに、2025 年度からは、NEWS（National Early Warning Score）を導入し、患者さんの状態を数値化して評価することで、急変兆候をより正確に把握できる体制を構築しました。2025 年度の延べ入院患者数は 185,301 人と昨年より 11345 人増加し、重症患者も増加傾向にあり、これに伴い急変リスクの高い患者さんが増加したと考えられます。コードブルー件数は昨年より増加しましたが、3 件の増加に抑えられたのは RRT による早期介入が急変の重篤化防止に効果があると考えます。今後も NEWS の運用を強化し、急変兆候に対して早期介入し予期せぬ心肺停止（コードブルー）の減少を目指します。さらに、体制強化と早期介入の徹底により、より安全で安心できる医療の提供に努めていきます。